

市内医療機関の皆様へ

横浜市保健所長 古賀 伸子

新型コロナウイルス感染症に対応した医療体制について

日ごろから、横浜市の感染症対策に御協力いただき厚くお礼申し上げます。

今般、国内外の新型コロナウイルス感染症の発生状況を踏まえ、令和 2 年 2 月 1 日、厚生労働省から、感染拡大に十分対応し、同感染症の疑い例（以下、「疑い例」という。）を、診療体制等の整った医療機関に確実につなぐため、疑い例を診察する「帰国者・接触者外来」を設置するよう依頼がありました。

これを受け、横浜市では、令和 2 年 2 月 10 日から、「帰国者・接触者外来」を設置します。

一般の医療機関におきましては、別添『新型コロナウイルス「疑い例」対応フロー』を参考に、患者が本来「帰国者・接触者外来」を受診すべき疑い例であることが受付等で判明した場合は、「帰国者・接触者相談センター」へ連絡の上で「帰国者・接触者外来」の受診を案内するとともに、「疑い例」に該当しない患者については一般診療を行っていただきますよう御協力をお願いします。

1 添付資料

- (1) 新型コロナウイルス感染症に対応した医療体制について（令和 2 年 2 月 1 日厚生労働省事務連絡）
- (2) 新型コロナウイルス感染症を疑う要件
- (3) 新型コロナウイルス感染症 帰国者・接触者外来 検体採取フロー図
- (4) 記者発表資料（令和 2 年 2 月 10 日）

2 参考

- ・ 新型コロナウイルス感染症帰国者・接触者相談センター 電話 0 4 5 - 6 6 4 - 7 7 6 1
- ・ 新型コロナウイルス感染症コールセンター 電話 0 4 5 - 5 5 0 - 5 5 3 0

担当：横浜市健康福祉局健康安全課
健康危機管理担当（電話 671-2463）

各都道府県衛生主管部（局） 御中

厚生労働省医政局地域医療計画課
厚生労働省健康局結核感染症課

新型コロナウイルス感染症に対応した医療体制について

新型コロナウイルス感染症について、感染の程度は依然として明らかではありませんが、中華人民共和国湖北省武漢市の滞在歴がない国内症例が発生している状況です。国民の不安を軽減するとともに、まん延をできる限り防止する観点から、貴都道府県内の保健所を設置する市及び特別区とも調整の上、下記のとおり、医療体制の整備を行っていただくようお願いします。なお、本件に係る補足事項については、別途御連絡する予定としています。

また、「帰国者・接触者外来」の設置状況、受診者数等及び「帰国者・接触者相談センター」の設置状況、相談件数等についての報告を別途依頼する予定ですので申し添えます。

記

1. 「帰国者・接触者外来」の設置について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に十分対応し、同感染症の疑い例（以下単に「疑い例」という。）（※）を、診療体制等の整った医療機関に確実につなぐため、疑い例を診察する「帰国者・接触者外来」を設置すること。目安として、2月上旬を目途に、二次医療圏ごとに1箇所以上、地域の感染状況等を鑑みながら設置すること。なお、「帰国者・接触者外来」を設置する医療機関は、感染症指定医療機関であることも可能である。

「帰国者・接触者外来」については、疑い例が新型コロナウイルス感染症以外の疾患の患者と接触しないよう、可能な限り動線を分ける（少なくとも診察室は分けることが望ましい。）、必要な検査体制を確保する、医療従事者の十分な感染対策を行うなど、国民の不安を軽減するとともに、まん延をできる限り防止するよう努めること。

また、「帰国者・接触者外来」の設置に当たって、都道府県は以下の点に留意すること。

- ・新型コロナウイルス感染症の検査体制について、あらかじめ「帰国者・接触者外

来」を持つ医療機関と共有しておくこと。

- ・「帰国者・接触者外来」の運営支援のため、感染対策資機材の調達、人材の配分、医薬品の確保等を行うこと。
- ・「帰国者・接触者外来」を持つ医療機関名やその場所については、2の「帰国者・接触者相談センター」が相談を受け付け、受診が必要であると判断した場合に知らせること。なお、「帰国者・接触者相談センター」を通じて受診手順を理解した状態で疑い例が受診することで十分な感染防止を行うという「帰国者・接触者外来」の趣旨から、一般への公表については、原則行わないものとする。ただし、「帰国者・接触者相談センター」を通じずに疑い例が受診しても十分な感染防止を行うことができ、また、通常より多数の患者が受診することとなったとしても診療体制に支障を来さない医療機関であるような場合には、この限りではない。

~~(※) 新型コロナウイルス感染症の疑い例の定義（現時点の定義であり、今後変更の可能性が
ある。）~~

~~以下の I および II を満たす場合を「疑い例」とする。~~

~~I 発熱(37.5 度以上)かつ呼吸器症状を有している。~~

~~II 発症から 2 週間以内に、以下の (ア)、(イ) の曝露歴のいずれかを満たす。~~

~~(ア) 武漢市を含む湖北省への渡航歴がある。~~

~~(イ) 「武漢市を含む湖北省への渡航歴があり、発熱かつ呼吸器症状を有する人」との接
触歴がある。~~

2. 「帰国者・接触者相談センター」の設置について

電話での相談を通じ、疑い例を「帰国者・接触者外来」へ受診させるよう調整を行う、「帰国者・接触者相談センター」を、1と同様に2月上旬を目途に、各保健所等に設置すること。

また、疑い例に該当する者は、医療機関を受診する前にまず「帰国者・接触者相談センター」へ電話により問い合わせること等を地域住民へ広く周知すること。

「帰国者・接触者相談センター」は、具体的には以下の対応を行う。

- ・疑い例から電話で相談を受け、「帰国者・接触者外来」へと受診調整する。
- ・その際、受診するよう指導した「帰国者・接触者外来」の電話番号を本人又はその家族等に伝え、受診前に必ず連絡して、受診する時刻及び入口等について問い合わせるよう指導する。
- ・状況に応じて、相談対応、受診調整が円滑に実施されるよう、適宜、対応人数、開設時間等を調整する。
- ・疑い例に該当しない場合は、適切な情報を与え、必要に応じて一般の医療機関を受診するよう指導する。

なお、「帰国者・接触者相談センター」は、全ての相談を受けるのではなく、疑い例を対象としたものであることに留意すること。(4. も参照のこと)

3. 一般の医療機関における診療について

一般の医療機関においては、患者が本来「帰国者・接触者外来」を受診すべき疑い例であることが受付等で判明した場合は、「帰国者・接触者相談センター」へ連絡の上での「帰国者・接触者外来」の受診を案内するよう、管内の医療機関に対し周知を図ること。

4. 一般電話相談の受付について

現在、厚生労働省では新型コロナウイルスに関する一般電話相談窓口を開設し、その電話番号をホームページにて公開しているところであるが、併せて貴都道府県の一般電話相談窓口に関する電話番号も掲載したいと考えている。

については、厚生労働省にて、貴都道府県の一般電話相談窓口に関する連絡先を別添1のとおりまとめているため、確認の上、①掲載の可否、②載せられない場合の理由、③連絡先の修正の有無について、下記の連絡先まで返信いただくようお願いする。

なお、住民の方々から相談を受けた場合は、別添2のQ&Aを御参考に、御対応いただきたい。

連絡先：nCOV-2019@mhlw.go.jp（※切：2／3（月））

<参考>

○厚生労働省ホームページ掲載「新型コロナウイルスに関するQ&A」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/dengue_fever_qa_00001.html

○厚生労働省の電話相談窓口 電話番号 03-3595-2285

受付時間 9時00分～21時00分（土日・祝日も実施）

新型コロナウイルスの感染が疑われる患者の要件

患者が次のア、イ、ウ又はエに該当し、かつ、他の感染症又は他の病因によることが明らかでなく、新型コロナウイルス感染症を疑う場合、これを鑑別診断に入れる。ただし、必ずしも次の要件に限定されるものではない。

- ア 発熱又は呼吸器症状（軽症の場合を含む。）を呈する者であって、新型コロナウイルス感染症であることが確定したものと濃厚接触（※1）があるもの
- イ 37.5℃以上の発熱かつ呼吸器症状を有し、発症前 14 日以内にWHOの公表内容から新型コロナウイルス感染症の流行が確認されている地域（※2）に渡航又は居住していたもの
- ウ 37.5℃以上の発熱かつ呼吸器症状を有し、発症前 14 日以内にWHOの公表内容から新型コロナウイルス感染症の流行が確認されている地域（※2）に渡航又は居住していたものと濃厚接触（※2）歴があるもの
- エ 発熱、呼吸器症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断し（法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症に相当）、新型コロナウイルス感染症の鑑別を要したもの

※1 濃厚接触とは、次の範囲に該当するものである。

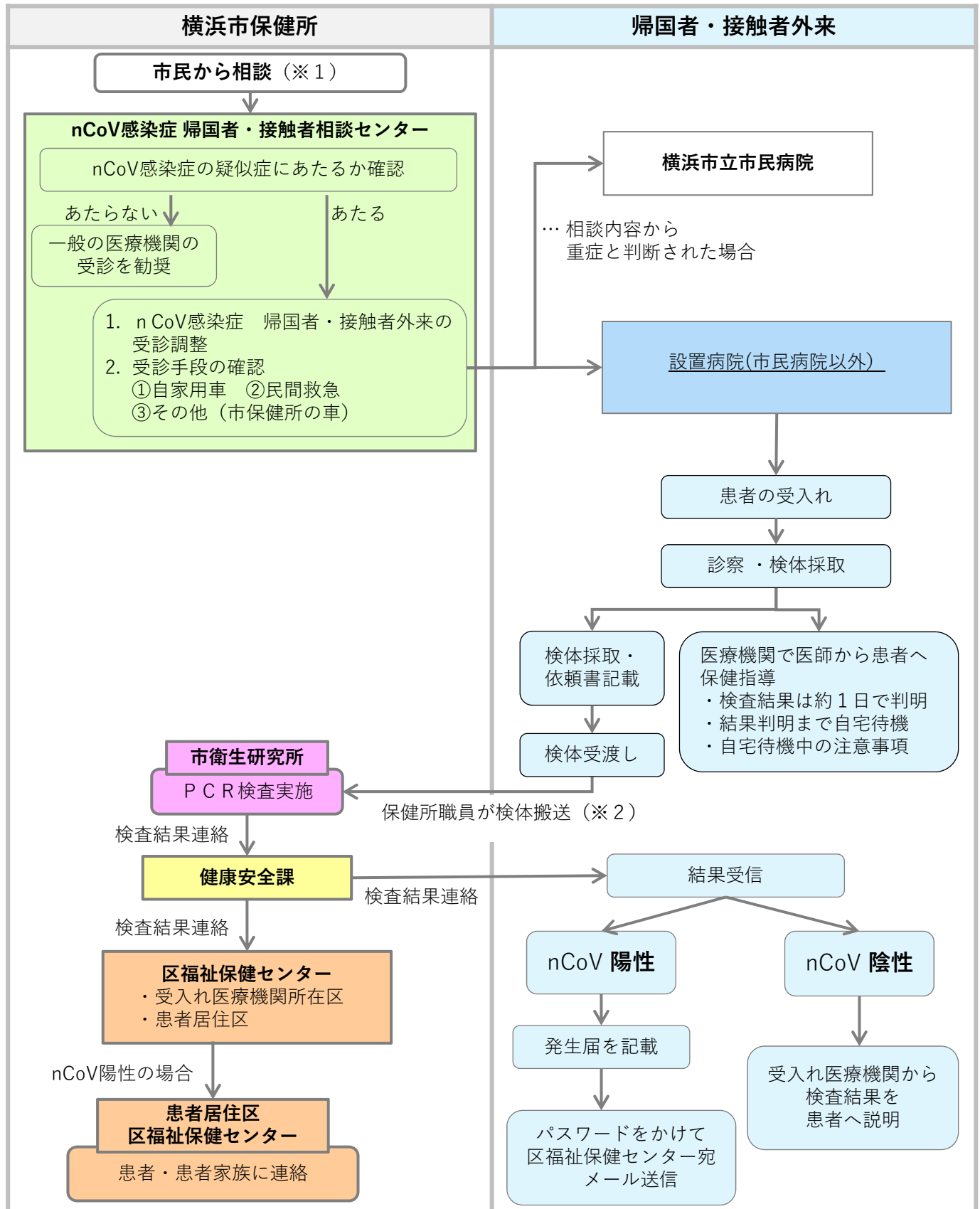
- ・新型コロナウイルス感染症が疑われる者と同居又は長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があった者
- ・適切な感染防護なしに新型コロナウイルス感染症が疑われる患者を診察、看護もしくは介護していた者
- ・新型コロナウイルス感染症が疑われる者の気道分泌液、体液等の汚染物質に直接触れた可能性が高い者

※2 中華人民共和国湖北省をいう。（令和2年2月10日時点）

新型コロナウイルス(nCoV)感染症 帰国者・接触者外来 検体採取フロー図

運用期間：令和2年2月10日（月）～令和2年2月16日（日）

医療機関用
【令和2年2月10日版】



※1 市民以外からの相談の場合、相談者の所在自治体の相談窓口をご紹介します
 ※2 2月17日（月）以降は、委託業者（バイク便）による搬送を調整中

新型コロナウイルス感染症に関する「コールセンター」 および「帰国者・接触者相談センター」を開設しました！

国内外での新型コロナウイルス感染症患者の増加にともない、横浜市に寄せられる市民の皆さまからの相談件数が増加しています。

そこで、令和2年2月10日（月）から「新型コロナウイルス感染症コールセンター（一般電話相談）」および「新型コロナウイルス感染症帰国者・接触者相談センター」を開設しました。感染の予防方法や有症時の受診方法等、市民の皆さまからのご相談に幅広く対応することにより、感染拡大の防止及び市民の皆さまの不安軽減を図ります。

1 新型コロナウイルス感染症コールセンター

感染症の特徴、予防方法、有症時の対応など、新型コロナウイルス感染症に関する全般的なご相談にお答えします。

電話番号：045-550-5530

開設時間：午前9時～午後9時（土日、祝日含む）

2 新型コロナウイルス感染症 帰国者・接触者相談センター

今般の国内外での新型コロナウイルス感染症の発生状況を踏まえ、新型コロナウイルスの流行地域（裏面※1参照）からの帰国者や新型コロナウイルス感染症患者との接触歴のある方等からの相談を受け付け、同感染症の疑い例に該当する方を診療体制等の整った医療機関につなぎます。（相談対象者については裏面を参照してください。）

電話番号：045-664-7761

開設時間：午前9時～午後9時（土日、祝日含む）

お問合せ先

健康福祉局健康安全課新型インフルエンザ等対策担当課長 浅野 昌弘 電話 045-671-2468

○ 帰国者・接触者相談センターの相談対象者

次のア、イ、ウまたはエに該当し、かつ、他の感染症又は他の病因によることが明らかでなく、新型コロナウイルス感染症が疑われる方及びその患者を診察した医療機関

ア 発熱または呼吸器症状（軽症の場合を含む。）を呈する者であって、新型コロナウイルス感染症であることが確定したものと濃厚接触歴（※2）があるもの

イ 37.5℃以上の発熱かつ呼吸器症状を有し、発症前14日以内にWHOの公表内容から新型コロナウイルス感染症の流行が確認されている地域に渡航又は居住していたもの

ウ 37.5℃以上の発熱かつ呼吸器症状を有し、発症前14日以内にWHOの公表内容から新型コロナウイルス感染症の流行が確認されている地域に渡航又は居住していたものと濃厚接触歴があるもの

エ 発熱、呼吸器症状その他感染症を疑わせるような症状のうち、医師が一般に認められている医学的知見に基づき、集中治療その他これに準ずるものが必要であり、かつ、直ちに特定の感染症と診断することができないと判断し（法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症に相当）、新型コロナウイルス感染症の鑑別を要したもの

※1 流行が確認されている地域

WHOの公表内容から新型コロナウイルス感染症の流行が確認されている地域とは、中華人民共和国湖北省をいう。（令和2年2月10日時点）

※2 濃厚接触とは、次の範囲に該当するものである。

- ・新型コロナウイルス感染症が疑われるものと同居あるいは長時間の接触（車内、航空機内等を含む）があったもの
- ・適切な感染防護無しに新型コロナウイルス感染症が疑われる患者を診察、看護若しくは介護していたもの
- ・新型コロナウイルス感染症が疑われるものの気道分泌液若しくは体液等に直接接触した可能性が高いもの